



みそのだより

令和7年10月31日
学校だより 11月号
板橋区立三園小学校
みどりの学びのエリア

合い言葉『生き生き 学びの三園小』

60回目の創立記念日

校長 和田 幹夫

だんだんと朝晩は冷え込むようになり、秋の深まりを感じる今日この頃です。皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日の音楽会には、大勢のご来賓の皆様、保護者・地域の皆様のご参観を賜り、誠にありがとうございました。お陰様で、「心を一つに 美しい音を 空高くとどけよう」のスローガンの下、子どもたち一人一人がこれまでの練習の成果を発揮し、声と音色、そして、心を一つに発表することができました。当日のまでの皆様の励まし、当日の温かい拍手の一つ一つが、子どもたちにとって大きな力となりました。心より感謝申し上げます。

さて、今週の月曜日、10月27日は、本校60回目の創立記念日でした。しかし、ここで私はふと疑問に思いました。なぜ、10月27日が開校記念日なのでしょう？ その秘密は、本校の歴史の中にあります。それでは、本校の創立当時の様子を振り返ってみたいと思います。

日本が戦後の復興を遂げ、高度経済成長期真っただ中にある頃、三園小学校は誕生しました。校舎の建設が始まったころ、学校のまわりは徳丸ヶ原と呼ばれ、水田が一面に広がっていました。その一角に盛り土をして、1965(昭和40)年3月、三園小学校の校舎が建てられました。そして、同年4月1日、東京都板橋区立三園小学校が開校、4月6日に入校式、入学式が行われ、子ども530人、教職員21人、15クラスで三園小学校の歴史が始まりました。

しかし、そのとき、体育館もなく、校庭も工事中だったので、入校式も、入学式も、今では信じられない場所で行われました(答えは、11月4日の全校朝会で話します。お子さんにぜひ、お聞きください)。その後、校舎がすべて完成し、校舎落成記念式典が行われたのが1965(昭和40)年10月27日でした。そうです。この日が開校記念日に定められたのです。そして、創立の年に完成した校舎は、平成18(2006)年度の大規模改修を経て、今もなお、使われています。今、子どもたちが学校生活を送っている校舎には、創立から60年にわたる子どもたちや職員、保護者、地域の皆さんの思い出や息遣いが残されているのです。

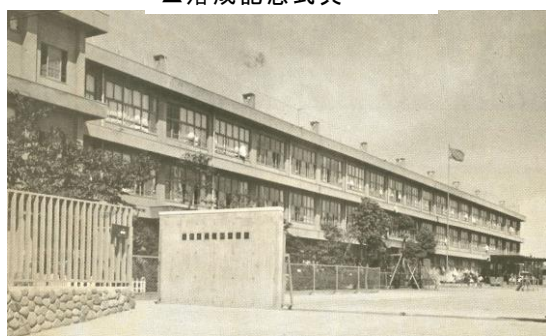
校舎の他にも、創立当初から残っているものがあります。それは「校章」です。今も校帽や、6年生が毎朝挙げてくれている校旗に記されている三枚の葉を描いた校章です。この校章もPTAの皆さんから募集し、53点もの応募の中から1965(昭和40)年10月15日に決められたそうです。葉は、このあたりに多く生えていたけやきの葉であり、成増、赤塚、新河岸三つの町が合わさってできた三園の町名を中心に三方向に葉を大きく広げています。

この他、学校の中には、この60年間につくられ、植えられ、今に受け継がれているものがたくさんあります。11月は、その一つ一つから先輩方、地域の方々の思いや伝統、誇りを学び、感謝する一か月にしていきたいと思います。

(参考:板橋区立三園小学校周年記念誌)



▲落成記念式典



▲創立10周年時の校舎



▲校章